

「無縁社会」とは、地縁や血縁、さらに社縁と呼ばれる、会社等の組織を基礎とする社会的な関係性が希薄となった、言わば人々の「つながり」がない社会を表現した造語で、テレビドキュメンタリーの製作プロセスの中で生まれた言葉です。私たちは、かつてに比べてより孤独であることを強いられた社会に生きていることとなります。こうした問題は、「孤独死（孤立死）」など、高齢者においていっそう深刻な側面を見せるだけでなく、女性や若者の問題としてもクローズアップされています。今回のセミナーでは、番組製作に携わった講師にこの問題について解説していただいたのち、映画の上映を通じて「無縁社会」と人権の問題について、ともに考えてみようと思います。おもに企業や団体で人権啓発に携わっている方、社会教育等でファシリテータを務められる方、その他人権啓発に広く関心のある方を対象としたセミナーです。

【講師プロフィール】

板垣淑子(いたがき・よしこ)さん

NHKプロデューサー

1994年NHK入局。報道局制作センター、仙台局、報道局社会番組部などを経て、大型企画開発センター所属。主な担当番組は、NHKスペシャル「ワーキングプア～働いても働いても豊かになれない(2006年)」(ギャラクシー賞大賞)、同「無縁社会～“無縁死”3万2千人の衝撃～(2010年)」(菊池寛賞)、同「終の住処はどこに 老人漂流社会(2012年)」などを制作。2015年放送文化基金賞個人賞を受賞。



【上映作品】

おみおくりの作法

(2013年・英伊合作、91分、字幕上映)

ロンドン市ケニントン地区の民生係、ジョン・メイ。ひとりきりで亡くなった人を弔うのが彼の仕事。事務的に処理することもできるこの仕事を、ジョン・メイは誠意をもってこなしている。しかし、人員整理で解雇の憂き目にあい、ジョン・メイの向かいの家に住んでいたピリー・ストークが最後の案件となる。この仕事をしているにもかかわらず、目の前に住みながら言葉も交わしたことがないピリー。ジョン・メイはピリーの人生を紐解くために、これまで以上に熱意をもって仕事に取り組む。そして、故人を知る人々を訪ね、イギリス中を旅し、出会はずのなかった人々と関わっていくことで、ジョン・メイ自身も新たな人生を歩み始める。



© Exponential (Still Life) Limited 2012

【会場案内】

日本橋公会堂 ホール
中央区日本橋蛸殻町1-31-1

- 東京メトロ・半蔵門線「水天宮前」6番出口から徒歩2分
- 日比谷線「人形町」A2出口から徒歩5分
- 東西線「茅場町」4-a出口から徒歩10分
- 都営浅草線「人形町」A3・A5番出口から徒歩7分
- 中央区コミュニティバス(江戸バス)北循環25「日本橋区民センター」下車0分



電話・FAX・Eメールにてお申し込みください。

お申込先

公益財団法人 東京都人権啓発センター

電話

03-6722-0085

Eメール

fukyu2806@tokyo-jinken.or.jp

FAX申込みフォーム

FAX 03 - 6722 - 0084

①お名前 (代表者)	参加人数		人
②ご連絡先 (いずれかお選びいただき、ご記入ください。)	電話	FAX	
	メール	@	
③ご所属またはご住所	〒		

※事前申し込み締切日:平成29年1月16日(応募者多数の場合は抽選となります。ただし、締切日を過ぎても席がある場合はお申し込みを受けます。なお、ご提供いただいた個人情報は、申込手続以外使用しません。